

校訓	自分を育て 自分を生かし 社会を明るく	令和8年度学校だより 「天の子」 第1号	発行日	令和8年4月8日
教育目標	夢と誇りのある生徒の育成 ～自ら学び、考え、主体的に行動する、心豊かな生徒の育成～		発行者	伊丹市立天王寺川中学校 校長 永嶺 香織

令和8年度 よろしくお祈りします

校訓『自分を育て 自分を生かし 社会を明るく』のもと、学校教育目標を「夢と誇りのある生徒の育成 ～自ら学び、考え、主体的に行動する、心豊かな生徒の育成～」と掲げ、確かな学力の育成、豊かな心と健やかな体の育成、信頼される開かれた学校づくり、教職員の資質向上に努めてまいります。



今年度も、天王寺川中学校の教育活動へのあたたかい見守りにご支援、ご協力をいただきますようお願い申し上げます。

始業式講話

令和8年度が始まります。みなさんが元気に新年度を迎えられたことを嬉しく思います。

3年生のみなさんは、最上級生となりました。学習や部活動、生徒会活動などすべての場面で、後輩たちの手本となります。また、自分の進路を決めていく大切な1年となります。

2年生のみなさんは、学校の中心となる学年です。夏以降は委員会活動など、みなさんにバトンが渡されます。また、4月10日には新入生が入学しますので、学校生活や中学生として大切にしてほしいことなどを教える、頼れる先輩になってください。

さて、新年度のスタートにあたり、今日は、天王寺川中学校の学校教育目標でもある「夢と誇り」についてお話しします。

「夢はありますか？」と聞かれるとみなさんはどう答えますか。「将来〇〇になること」とか、「夢はまだありません」と答える人が多いと思います。「夢」と聞かれると、大きな目標や将来の職業を指すと思いがちです。だから、みなさんの年頃になると、自分の将来について深く考え、簡単に「夢」という言葉を口にしにくくなるものです。でも、私はこのように考えます。それは、未来に向かって生きる可能性を秘めたみなさんにとっては、「自分にもできるかもしれない」「やってみようかな」そう思えた気持ち。失敗しても、「もう一度やり直してみよう」と思えること。それが大きな夢につながっていく夢の第一歩だと思っています。ですから、今を大切にしてほしいです。

次に、「誇り」とは、「自慢に思うこと」「光栄に思うこと」などの意味があります。何か立派なことをして人から高い評価を得たり、大きなことを成し遂げたりしたときに生まれるものだと思います。では、人から評価されなければ誇りは持てないのでしょうか。それは違います。人の評価や他の人より優れていることだけを誇りに思うのではなく、誰かの役に立てたとき、仲間と一緒に何かをやりとげたとき、「自分は、ここにいていい」と思えたときなど、自分に生まれる自

